

Top Message

ごあいさつ

グループ全体の技術、人材、
知識を結集、融合させ、
様々な課題を克服してまいります。

代表取締役社長

佐藤 廣 士



当上半期の業績について

株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申しあげます。

まず、当社グループの第157期上半期(平成21年4月1日～平成21年9月30日)における取組みならびに連結業績についてご報告申しあげます。

当上半期のわが国経済は、昨年の金融危機以降の急速な悪化が下げ止まり、持ち直しに転じましたが、依然として生産や設備投資の水準は低く、予断を許さぬ状況が続きました。海外においては、中国やインドなどの新興国の経済が成長軌道に戻りつつある一方で、先進国の景気回復の足取りは重く、全体としては混沌とした状態が続き、現在に至っています。

当社グループを取り巻く需要環境も斑模様を呈しています。世界各国による景気刺激策の効果などにより、国内およびアジア向けの自動車や電機関連需要に上半期の途中から回復が見られたほか、中国における油圧ショベルの需要は活況を呈しました。一方で、国内外における製造業の設備投資に関連した需要は低迷が続き、造船向けの需要にも

減速が見受けられるなど、極めて厳しい事業環境であったといえます。

このような環境のもと、当社は、営業面では、販売価格の維持と販売数量および受注案件の確保に努めました。また、生産面では、素材系の事業を中心に引き続き低操業を余儀なくされる中で、一層のコストダウン活動に取り組みました。

こうした取組みが一定の成果をあげたものの、前半の販売数量が低水準に止まった影響が大きく、当上半期の連結業績は、売上高は7,881億円、営業損益は246億円の損失、経常損益は442億円の損失、税引き後の当期純損益は453億円の損失と厳しい結果になりました。

当期の中間配当につきましては、当期純損益が大幅な赤字となったことや、今後も厳しい経営環境が続くものと予想されることなどを総合的に勘案し、前期の期末配当に引き続き見送ることとさせていただきます。株主の皆様のご期待に沿うことが出来ず、誠に遺憾ではございますが、事情

をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜わりますようお願い申し上げます。

今後の見通しと取組みについて

今般、当上半期の業績発表と併せて、年度の業績見通しを発表しております。売上高は1兆6,350億円、営業利益は200億円、経常損益は200億円の損失、税引き後の当期純損益は350億円の損失を見込んでおります。年度での経常損益は赤字の見通しではありますが、当下半年は、平成20年度下半年、平成21年度上半期と続いた経常赤字から、経常黒字への回復を計画しており、確実な達成に向け、これまで以上のコストダウンと営業努力に取り組んでまいります。

当社を取り巻く環境は、一年前に比べ落ち着きを取り戻しつつありますが、今後、各国政府による景気刺激策の効果が途切れた場合に、所謂「二番底」に陥る不安が拭えないなど、経済情勢は依然として不透明な状況です。

昨年の金融危機以降、経済情勢の見通しが極めて不透明であったことから、現在のところ、当社グループでは今後の中期的な数値計画を設定するに至っておらず、株主の皆様からは当社グループの将来像が見えにくい状況にあると感じられるかもしれません。しかしながら、どのような経済状況にあっても将来の成長戦略は必要であり、この上半期においても、北米での圧縮機工場の拡張やインドでの油圧ショベル生産拠点の新設など、将来の成長に必要な施策については機を逸することなく決定してまいりました。

また、このたび、グループ内で各事業の「中長期ビジョン」に関する議論も開始しております。あらためて、グループの

各事業において、成長を目指した「中長期ビジョン」を見定め、それに至る道筋を整理していきたいと考えております。しかるべき時期に中期経営計画として取り纏め、皆様にご説明できる様、鋭意検討を進めてまいります。

当社グループを取り巻く環境は、今後も厳しい状況が続くものと思われれます。また、地球環境と調和しながら事業を継続するために、これまで以上の努力、画期的な技術革新も社会から求められています。このような課題を克服し、成長を遂げるためには、当社グループが有する様々な分野にわたる技術、人材、知識を結集、融合させることが必要であると考えています。

当社グループは、これからも全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましてはなお一層のご支援とご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

平成21年11月

神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、下記の企業理念のもと、株主・投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

連結

売上高

7,881 億円
(前年同期比 Δ 33.9%)



営業損益

Δ **246 億円**
(前年同期比 -)



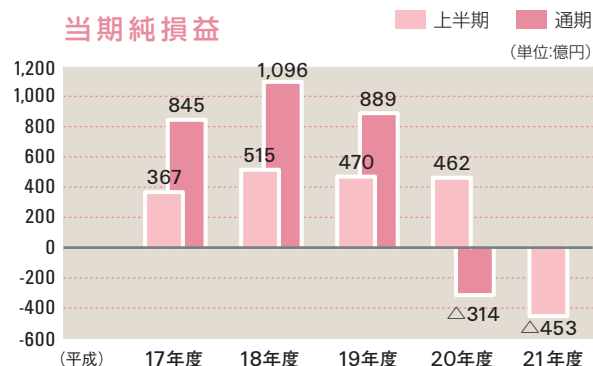
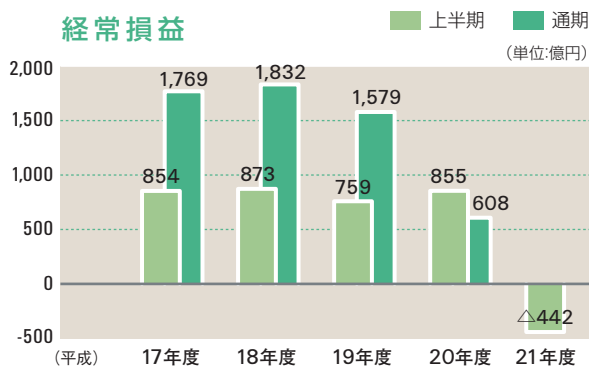
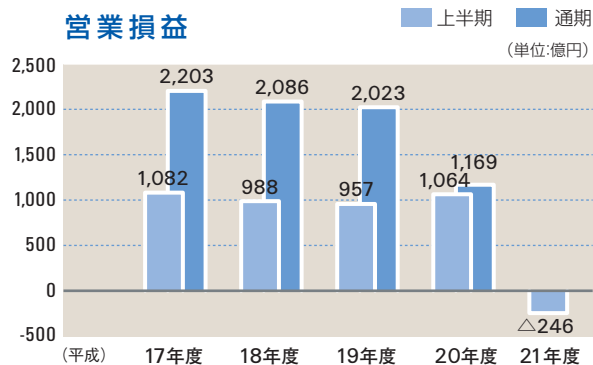
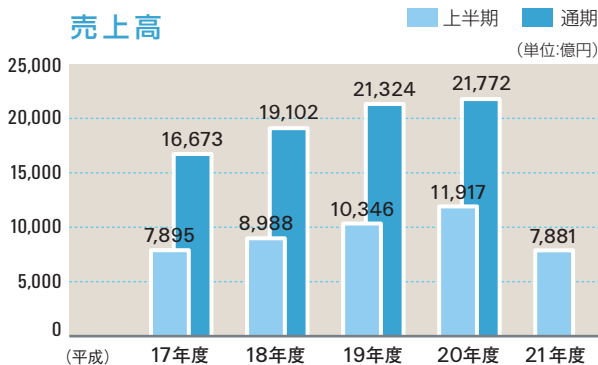
経常損益

Δ **442 億円**
(前年同期比 -)



当期純損益

Δ **453 億円**
(前年同期比 -)



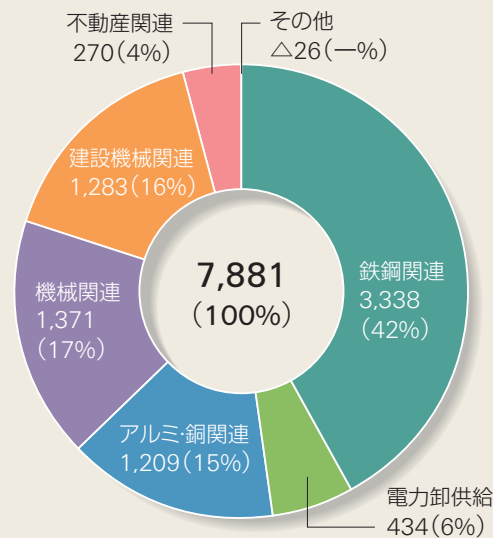
(表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

当上半期の概況

当上半期(第2四半期連結累計期間)のわが国経済は、国内外における景気対策の発動や在庫調整の進展、海外経済の改善を背景に、生産に回復の兆候が見えるなど、持ち直しに転じました。また、海外においても同様に、中国で景気は回復に転じたほか、米国や欧州においても持ち直しの兆候が見られましたが、世界経済全体としては、前年同期の水準と比べると、大きく落ち込んでおり、依然として景気の低迷が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鉄鋼関連事業の鋼材やアルミ・銅関連事業を中心に、7-9月の販売数量は4-6月に比べると回復したものの、当上半期としては、総じて堅調な需要に恵まれた前年同期と比較すると、各事業における販売数量が減少しました。この結果、当上半期の売上高は、前年同期に比べ4,036億円減収の7,881億円となり、営業損益は、昨年末に立ち上げた収益改善委員会を中核とした総コストの改善活動に注力したものの、前年同期に比べ1,311億円減益の246億円の損失となりました。また経常損益は、前年同期に比べ1,297億円減益の442億円、純損益は同じく915億円減益の453億円のそれぞれ損失となりました。

事業別売上高(平成21年度上半期) (単位:億円)



(注)「その他」には「電子材料・その他の事業」の売上高191億円と事業間の内部売上等の消去額△217億円が含まれておりますので、上記円グラフ「その他」の金額は△26億円となっています。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)



鉄鋼関連事業

3,338 億円
(前年同期比 △39.9%)



一部分野にかげりはあるものの、
鋼材需要は回復しつつあります。

- 自動車、電機向け需要は春から夏にかけて回復に転じ、中国を中心とした海外需要も堅調に推移。
- 操業率は改善するも、鋼材出荷数量は前年同期比では減少。
- 鋼材販売単価は原材料価格下落影響から下落。
- 鋳鍛鋼品の売上高は前年同期並み。
- 溶接材料やチタン製品は需要が依然低迷し、前年同期を下回る。

- 営業損益は、固定費削減などに取り組むも、前年同期比1,179億円減の542億円の損失。



加古川製鉄所 熱延工場



電力卸供給事業

434 億円

(前年同期比 +22.9%)



安定操業と収益維持に努めています。

- 電力単価に転嫁される石炭価格が上昇し、売上高は増加。
- 営業利益は減価償却費が減少し、前年同期比22億円増益の99億円。



神鋼神戸発電所



アルミ・銅関連事業

1,209 億円

(前年同期比 △46.8%)



低迷期を脱し、回復傾向にあり、収益改善の効果も出つつあります。

- 飲料用アルミ缶材の販売量は冷夏の影響を受けながらも堅調。
- 自動車向けアルミ圧延材は環境対応車種の販売好調により回復。
- 液晶・半導体製造装置向けはアルミ圧延材、鋳鍛造品ともに低調。
- アルミ圧延品全体の販売量は回復途上であり、前年同期を下回る。
- 銅圧延品の販売量は大幅回復も、前年同期比では減少。
- 販売価格に転嫁される地金価格が下落したこともあり、売上高は前年同期比減少。
- 営業利益は前年同期比33億円減益の2億円。



アルミ板コイル



機械関連事業

1,371 億円

(前年同期比 △16.6%)



景気低迷の影響を受け、受注は減少傾向にあり、一層のコストダウンに努めてまいります。

- 自動車および石油精製、石油化学業界の設備投資が低迷し、関連製品の受注が減少。
- LNG関連機器や大型圧縮機の一部案件での計画延期発生、還元鉄プラントの新規案件も減少。
- 結果、国内受注高は前年同期比10.3%減少の634億円、海外向けが前年同期比68.6%減の219億円、事業全体の受注高は前年同期比39.3%減の853億円。
- 上半期末の受注残高は2,818億円
- 売上高は、大型案件の売上が集中した前年同期比では減少。
- 営業利益はコスト削減により、前年同期比7億円増益の139億円。



ターボ圧縮機



建設機械関連事業

1,283 億円
(前年同期比 △34.4%)



拡大する中国やインドなどの新興国市場の需要を取り込むべく努めています。

- 油圧ショベルは中国での販売台数が、内陸部を中心に前年同期を大幅に上回る。国内、米国、欧州向けの販売台数は更に減少。結果、全体の販売台数は前年同期比減少。
- クレーンの販売台数は、比較的堅調だった北米向けが在庫調整影響などにより前年同期比減少。国内、中東向けも前年同期を下回る。
- 営業利益は、前年同期比110億円減益の21億円



後方超小旋回ミニショベル
ビートル「SK10SR」



不動産関連事業

270 億円
(前年同期比 +70.5%)



大型物件の引渡しが順調に進みました。

- 不動産販売部門で、大型物件の引渡しが順調に推移したことなどから、売上高は前年同期比で大幅に増加。
- 営業利益は、前年同期比13億円増益の28億円。



ジークレフ新神戸タワー



電子材料・ その他の事業

191 億円
(前年同期比 △31.9%)



液晶パネル向けターゲット材需要に回復が見られますが、試験分析事業が落ち込みました。

- 試験分析事業において、輸送機、エレクトロニクス業界向けなどを中心に需要が低迷し、売上高は減少。
- 営業損益は前年同期に比べ35億円減益の11億円の損失。



ターゲット材

● 鉄鋼関連事業 ● アルミ・銅関連事業 ● 機械関連事業

2009 (平成21年)

4月

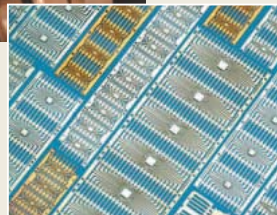
アルミ・銅関連事業

ドイツ大手伸銅メーカーに 半導体リードフレーム用銅合金のライセンス供与

ドイツの大手伸銅メーカー「ウィーランド社」と当社は、ウィーランド社に半導体リードフレーム用銅合金「スーパーKFCシリーズ」3品種の製造販売に関するライセンスを供与する契約を締結しました。「スーパーKFCシリーズ」は主にIC向け半導体リードフレーム用の新合金として、次世代の世界標準の地位を確立すべく、当社が2006年に開発したオンリーワン製品です。今回のライセンス供与は、需要家からの調達リスク低減を目的とした調達先の複数化要望に応えたものです。ウィーランド社は、当社と北米で銅管事業の合併会社を経営する関係にあり、今後は両社で「スーパーKFCシリーズ」の世界標準化を目指してまいります。



電子材料用銅板条



半導体リードフレーム材

5月

● アルミ吸音パネル「エコキューオン」が アルミニウム協会賞・技術賞を受賞

6月

機械関連事業

インドに製鉄機械などの営業拠点を設立

インド西ベンガル州コルカタ市に、圧延(鉄・非鉄)、連続鋳造、プレス機械など製鉄機械のマーケティングおよび販売支援を行なう「Kobelco Machinery India Private Limited」を設立しました。当社の製鉄機械事業にとってインドの成長市場を取り込むことは最重要課題であり、インドにおける製鉄プラントの建設地の集中するベンガル湾沿岸のコルカタに拠点を設立することで、今後の事業拡大を図ってまいります。



アルミ箔エコキューオン

● 日立環境財団・日刊工業新聞社主催 第36回「環境賞」 優良賞を当社の「薄板全製品のクロメートフリー化」が受賞

9月

鉄鋼関連事業

World Auto Steelが次世代電気自動車、 ハイブリッド車の車体コンセプトの開発について 中間報告を実施

World Steel Association(世界鉄鋼協会)の自動車分科会であり、当社も所属するWorld Auto Steelが、次世代電気自動車、ハイブリッド車の車体コンセプトの開発について中間報告を行ないました。中間発表では2020年時点での実現可能性、コストに基づき車体の駆動系を選択し、仕様の検討を行ないました。今後は、詳細な設計と最適化を実施し、新たな車体構造を開発してまいります。



コンプライアンスへの取組み

～私たちはコンプライアンスへの高い「感度」をもった企業風土を目指します～

当社では、コンプライアンスへのこれまでの取組みを強化し、企業活動の底流を支えるものとするため、基本方針に、コンプライアンスリスクを自ら抽出し、対応策を検討する「コンプライアンス感度の高い組織」と、潜在的なコンプライアンス問題をそのままにしない「規律意識の高い企業風土」作りの2つを掲げ、新たな取組みを開始しました。

具体的には、今年度より“リスク管理”の全面的な見直しを実施、新たな“リスク管理活動”としての再構築を行っています。この“リスク管理活動”をコンプライアンス活動の軸に位置づけ、全社的な展開を開始しました。

また、この活動を支えるために、「制度・しくみ」、「教育・啓発」、「組織・体制」の3つの視点から諸施策を実施しています。

<リスク管理活動を支える3つの柱>

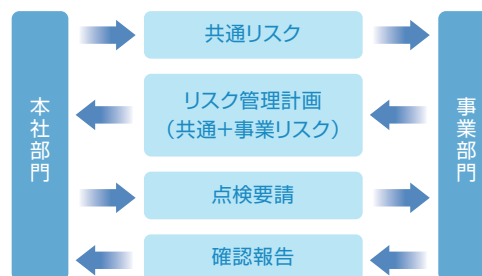
制度・しくみ	<ul style="list-style-type: none">● “リスク管理活動”の再構築● 社内規程の整備・見直し
教育・啓発	<ul style="list-style-type: none">● 経営トップも含めた法令教育の実施● 全社研修の見直し● 過去の事例に学ぶ取組み
組織・体制	<ul style="list-style-type: none">● コンプライアンス統括室兼務者配置● 本社スタッフによる進捗確認・事業所訪問

この“リスク管理活動”では、本社部門よりコンプライアンスにかかわるリスク項目を整理・分類し、それぞれのリスク項目に関する法令解説や改正への動き、過去

発生した社内事例等を織り込んだ上で、全社の「共通リスク」として各事業部門へ発信します。事業部門は、この「共通リスク」に、事業独自の「事業リスク」を加え、事業年度の「リスク管理計画」として作成し、計画を実行します。さらに、年度末には本社部門の点検要請に基づき、全部署がその組織の「リスク管理状況」を確認します。

この新たな“リスク管理計画”は、法令や社会の変化に応じて本社部門より発信される「共通リスク」と連動させながら、各事業部門が事業計画に連動する「リスク管理計画」を毎年、策定・実行・点検することで、事業運営の中でPDCA (Plan, Do, Check, Action) のサイクルが着実に回ることを目標とするものです。

<リスク管理活動のサイクル>



当社では、これまででもコンプライアンスを経営の最重要課題の一つとして取り組んでまいりましたが、これからも経営陣が先頭に立ち、コンプライアンスの徹底を事業のなかで検証し続けることで、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化をもった企業を目指します。

環境への取組みと 社会との共生



神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定して、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。環境経営委員会を設け、グループ全体で環境経営に取り組んでいます。

■環境経営基本方針

『グループ環境経営の実践による企業価値向上』
—— グループの環境力向上 ——

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループを目指して

1. 環境に配慮した生産活動
2. 製品・技術・サービスでの環境への貢献
3. 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすとともに、環境力を高め企業価値を向上させる。

■環境マネジメントシステムの構築

神戸製鋼グループは、継続的かつ効果的に法令遵守および環境改善への取組みを推進するために、環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格「ISO14001」、環境省の「エコアクション21(EA21)」、こうべ環境フォーラムの「神戸環境マネジメントシステム(KEMS)」などの認証取得を奨励しています。

2009年度上期については、グループ会社3社が認証を取得し、重要な事業所として残すところ1事業所が、認証に向けて継続して取り組んでいます。なお、当社全事業所(11事業所)については環境マネジメントシステムの認証取得が完了しており、グループ会社についても合計48社が認証を取得しています。

■薄板全製品のクロメートフリー化で 環境賞を受賞

第36回「環境賞」(日立環境財団・日刊工業新聞社主催、環境省後援)の優良賞に、当社の「薄板全製品のクロメートフリー化」が選ばれ、6月10日に表彰式が開催されました。同賞は、循環型社会の構築に資することを目的として1974年に創設され、環境保全に寄与する科学技術の調査、開発、研究などにおける具体的な成果に与えられる、国内の環境関連ではもっとも歴史のある表彰です。

従来から、鋼板の表面には耐食性の向上のために、亜鉛めっきが施され、さらにその上に特定化学物質である六価クロムを含むクロメート処理が施されてきました。近年、多くの産業分野において環境負荷物質使用の削減活動が進められ、鋼板についても六価クロムの不使用・非含有を意味するクロメートフリーが求められています。当社では、その要求にいち早く対応するため、クロメート処理の全廃を目標に、独自の薄膜皮膜処理技術で代替技術の研究開発を進め、1998年に業界初のクロメートフリー電気亜鉛めっき鋼板「コーベジंकGX処理」を商品化しました。その後も表面処理技術の開発を進めた結果、2008年2月には薄板全製品についてクロメートフリー化を達成しました。

この度は、この環境技術による環境負荷の低減効果とその実績が高く評価され、今回の受賞となりました。



表彰式の様子

社会貢献への取り組み

神戸製鋼グループでは、社会の一員として、地域住民の皆様との交流活動、地域社会への貢献活動に継続的に取り組んでいます。

四川大地震 被災小学校の再建が完了。 落成式を行ないました。

当社グループのコベルコ建機、コベルコ建機の中国合弁会社である成都神鋼工程機械(集団)、成都神鋼建設機械の3社は、昨年5月12日の四川大地震後、被災地の中心に位置する唯一の建設機械メーカーとして、建設機械の寄贈などの支援のほか、震災で倒壊した小学校の再建復興計画に参画していましたが、このたび無事に、9月1日に再建した小学校の始業式を迎え、9月22日には落成式を終えることが出来ました。

再建した小学校は、マグニチュード8の地震にも耐えうる耐震構造をもった4階建ての校舎と3階建ての職員室、3階建ての学生寮からなり、当社グループでは校舎の再建以外にも机、椅子な

どの備品購入もお手伝いいたしました。新しい小学校には、800名の児童たちが通うこととなります。

小学校の名前は「彭州(べんぞう)市麗春鎮慶興神鋼小学校」といい、今回小学校を寄贈した当社グループを代表する形で「神鋼」の文言がつけられました。

当社グループでは、今後も末永く同小学校と交流を続けてまいります。



彭州(べんぞう)市麗春鎮
慶興神鋼小学校

ラグビーを通じての活動

「KOBELCOカップ2009」を開催

日本のラグビー普及を目指して、当社グループが特別協賛する「KOBELCOカップ2009第5回全国高校合同チームラグビー大会」が7月27日～30日に長野県・菅平高原サニアパークで開催されました。この大会は、全国9ブロックから選抜された17歳以下の代表選手による高いレベルの試合を通して、ラグビー競技に必要な基礎体力・技術・知識等、選手の資質向上を図ること、そして部員不足の学校の18歳以下の選手による選抜チームを構成してラグビーの普及を図ることを主な目的とし、毎年夏に開催しており、今回で5回目となります。

この大会には、当社の神戸製鋼コベルコスティーラーズの現役選手も各ブロック担当の選手指導という形で参加しています。

本年7月には、ラグビーワールドカップ2019の日本開催が決

定、また、10月には2016年に開催予定の夏季五輪の新たな種目として7人制ラグビーが採用されることが決定しました。当社グループは今後も、高校生選手たちの育成、強化、競技人口の増加、スポーツを通じた健全な人材の育成に協力するとともに、ラグビーファンの拡大とラグビーの普及活動に努めることで、オリンピックやワールドカップ開催を盛り上げてまいりたいと考えています。



KOBELCOカップ2009

Corporate Data

事業分野

(平成21年9月30日現在)

■鉄鋼関連事業

普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼、
厚板、中板、薄板(熱延・冷延・表面処理)、鋼片、
鍛鍛鋼品、チタンおよびチタン合金、鉄粉、鋳物用銑、製鋼用銑、
スラグ製品、ステンレス鋼管、建材、各種特殊鋼製品、各種鋼線、
各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス、
溶接ロボット、溶接電源、各種溶接ロボットシステム、
溶接関連試験・分析・コンサルティング業

■電力卸供給事業

電力卸供給

■アルミ・銅関連事業

飲料缶用アルミ板、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、
各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板、アルミ箔、
半導体用伸銅板条、自動車端子用伸銅板条、リードフレーム、
復水管、空調用銅管、
アルミニウム合金およびマグネシウム合金鍛造品、アルミ加工品

■機械関連事業

製鉄プラント(還元鉄・圧延等)、
各種プラント(非鉄・ペレタイジング・石油化学等)、
エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、砂防・防災製品、
土木工事、新交通システム、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高压装置、
真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、
各種環境プラント、資源再生、冷却塔、各種内燃機関、搬送機器

■建設機械関連事業

油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ、クローラークレーン、
ラフテレーンクレーン、作業船

■不動産関連事業

不動産開発・建設・分譲・仲介・リフォーム、
不動産賃貸・ビルマネジメント、マンション管理

■電子材料・その他の事業

特殊合金他新材料(ターゲット材等)、各種材料の分析・解析、
高圧ガス容器製造業、シリコンウエハーの再生研磨・販売、
超電導製品、有料老人ホームの運営、総合商社

連結子会社および持分法適用会社 [209社]

(平成21年9月30日現在)

■鉄鋼関連事業：61社

日本高周波鋼業株式会社、神鋼特殊鋼管株式会社、
神鋼建材工業株式会社、神鋼物流株式会社、神鋼ボルト株式会社、
堺鋼板工業株式会社、株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンス、
神鋼総合サービス株式会社、KOBEL ウェルディングワイヤ株式会社、
エヌアイウエル株式会社、
コウベ ウェルディング オブ コリア カンパニー リミテッド、
※株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ、神鋼鋼線工業株式会社、
※関西熱化学株式会社、株式会社テザックワイヤロープ 他

■電力卸供給事業：1社

神鋼神戸発電株式会社

■アルミ・銅関連事業：28社

株式会社コベルコ マテリアル銅管、神鋼リードミック株式会社、
サン・アルミニウム工業株式会社、神鋼ノース株式会社、
神鋼メタルプロダクツ株式会社、
コウベ プレシジョン テクノロジー センディリアン ベアヘッド、
シンガポール コウベ プライベート リミテッド、
コウベ エレクトロニクス マテリアル(タイランド)カンパニーリミテッド 他

■機械関連事業：41社

株式会社神鋼環境ソリューション、コベルコ・コンプレッサ株式会社、
神鋼造機株式会社、コンプレホ シデルルヒコ デグアジャナ セアー 他

■建設機械関連事業：45社

コベルコ建機株式会社、コベルコクレーン株式会社 他

■不動産関連事業：8社

神鋼不動産株式会社 他

■電子材料・その他の事業：25社

株式会社コベルコ科研、神鋼 JFE 機器株式会社、
コウベ スチール USA ホールディングス インコーポレーテッド、
※神鋼商事株式会社、※日本メディカルマテリアル株式会社 他

(注)※印は持分法適用会社であります。

取締役および監査役、執行役員

(平成21年9月30日現在)

取締役社長(代表取締役)
佐藤 廣士

■本社

取締役副社長(代表取締役)
松谷 高志

専務取締役
川田 豊

専務取締役
藤原 寛明

常務執行役員
泉 博二

常務執行役員
沖田 誠治

常務執行役員
関 勇一

執行役員
金子 明

執行役員
花岡 正浩

執行役員
眞部 晶平

【鉄鋼部門】

取締役副社長(代表取締役)
※賀屋 知行

専務執行役員
大西 功一

専務執行役員
村瀬 敬一

専務執行役員
山口 育廣

常務執行役員
公文 康進

執行役員
川崎 博也

執行役員
津村 拓良

執行役員
塚本 晃彦

執行役員
尾上 善則

執行役員
梅原 尚人

執行役員
宮脇 新也

■溶接カンパニー

常務取締役
※粕谷 強

執行役員
高村 実朗

■アルミ・銅カンパニー

専務取締役
※高橋 徹

専務執行役員
下村 良介

■機械エンジニアリングカンパニー

専務取締役(代表取締役)
※重河 和夫

常務執行役員
田中 順

常務執行役員
毛利 修三

執行役員
楳木 一秀

■社外取締役

取締役
中野 淳司

取締役
土居 征夫

(注)※印は、鉄鋼部門長および各カンパニープレジデントであります。

監査役(常勤)
浅岡 徹

監査役(常勤)
大越 年祝

監査役(社外監査役)
金子 崇輔

監査役(社外監査役)
池田 義一

監査役(社外監査役)
佐々木 茂夫

会社の概要

(平成21年9月30日現在)

- 創 立 明治38年9月
- 資 本 金 2,333億1,324万8,065円
- 発行済株式総数 31億1,506万1,100株
- 株 主 数 251,472名
- 従 業 員 数 10,394名

事業所

神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜町二丁目10番26号

☎078(261)5111(大代表)

東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川五丁目9番12号

☎03(5739)6000(大代表)

支 社 大阪・名古屋

支 店 北海道(札幌市)・東北(仙台市)・

新潟(新潟市)・北陸(富山市)・

四国(高松市)・中国(広島市)・

九州(福岡市)・沖縄(那覇市)

海外事務所 ニューヨーク・デトロイト・シンガポール・北京・上海

(注)「海外事務所」には現地法人を含めております。

研 究 所 神戸

製鉄所・工場 <鉄鋼・溶接部門> 加古川・神戸・高砂・藤沢・茨木・西条

<アルミ・銅部門> 真岡・長府・大安

<機 械 部 門> 高砂・播磨

ご所有株式数ご確認のお願い

※ご一読ください

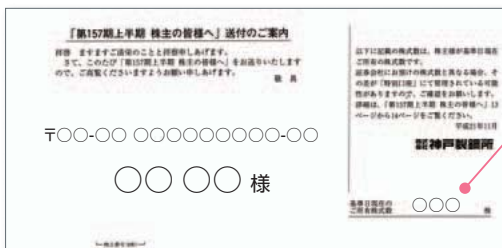
株主様ご所有の株式の一部または全部が、「特別口座」で管理されている場合があります。
ご所有の株式数のご確認をお願いいたします。

特別口座とは

平成21年1月に実施された株券電子化により、それまで証券会社の口座にお預けにならなかった当社株式は三菱UFJ信託銀行にある「特別口座」にて管理しております。「特別口座」では単元株式の売買はできません。証券会社の口座に移管することをお奨めします。（手続きの詳細は下記の移管の方法をご覧ください）

● ご所有株式数ご確認のお願い

この冊子に同封されている「『第157期上半期 株主の皆様へ』送付のご案内」の下記の箇所に株主様がご所有されている株式数を記載しております。



ここに、株主様がご所有されている株式数を記載しています

証券会社にお預けの株式数と、この箇所に記載の株式数が異なる場合には、その差異の株式数が「特別口座」に記録されている可能性があります。必ずご確認ください。

「特別口座」から証券会社の口座への株式の移管の方法

証券会社に口座を開設する。

すでに証券会社に株式の取扱いができる口座をお持ちであれば、新たに開設の必要はありません



三菱UFJ信託銀行に、振替用の請求用紙を請求する。



送られてきた請求用紙に必要事項を記入・押印して、三菱UFJ信託銀行に送付する。



これで手続きは完了です。

証券会社の口座に株式が移管されます。



工場見学会のご案内

当社は株主の皆様へ当社へのご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様工場見学会を実施いたします。
今回ご覧いただく工場は、加古川製鉄所（兵庫県加古川市）でございます。つきましては、下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。

見学工場：加古川製鉄所
（兵庫県加古川市金沢町1）

対象者：平成21年9月30日現在、
当社株式1,000株以上を
ご所有の株主様



工場見学会の概要

申込番号	実施日時 (平成22年)	集合場所	集合時間	解散場所・予定時間
①	3月7日(日)	JR加古川駅近辺	8:50	JR加古川駅近辺 12:50頃
②	3月7日(日)	JR加古川駅近辺	13:15	JR加古川駅近辺 17:15頃
③	3月8日(月)	JR加古川駅近辺	8:50	JR加古川駅近辺 12:50頃
④	3月8日(月)	JR加古川駅近辺	13:15	JR加古川駅近辺 17:15頃

※JR加古川駅は、JR山陽本線（JR神戸線）沿線

※JR加古川駅までの所要時間：JR三ノ宮駅から新快速で約30分
JR大阪駅から新快速で約60分

募集人数：300名(各回75名)※募集人数には同伴者を含みます。

※以下の点につき、あらかじめご了承ください。

- 応募人数が多い場合には抽選とさせていただきます。
- 同伴者は1名までとさせていただきます。
- 必ず株主様でご参加くださいますようお願い申し上げます。
抽選の結果は2月上旬にご通知いたします。

応募方法：同封のはがきに必要な事項をご記入のうえ、ご返送ください。
締切日：平成22年1月7日(木)当日消印有効

参加費：無料

※ただし、集合・解散場所（JR加古川駅）までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。

その他：工場見学ルートは、徒歩での移動となります。
(何力所か階段がございます。)

詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

お問合せ先：株式会社神戸製鋼所 法務部 工場見学会係
TEL 078-261-4066
受付時間 10:00～17:00(土・日、祝日、年末年始を除く)

「特別口座」にある単元未満株式の 買取・買増請求について

特別口座にある株式が単元未満株式（1,000株未満の株式）の場合、買取請求もしくは買増請求をすることができます。

● 買取請求

「特別口座」にて単元未満株式をご所有の場合、その株式を当社が買い取るよう請求することができます。

● 買増請求

ご所有の単元未満株式と合わせて1単元（1,000株）となるような株式を、当社から買い取るよう請求することができます。この場合、1単元となった株式は、特別口座にて管理され、このままでは売却することができません。株主様の証券会社の口座にお振替えになることをお奨めいたします。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月

基準日

定時株主総会 3月31日

剰余金の配当 期末 3月31日

中間 9月30日

(その他必要のあるときはあらかじめ公告します。)

公告方法 電子公告
(当社ホームページをご覧ください。)

<http://www.kobelco.co.jp>

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

株式に関するご案内

当社の株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下のとおりです。

①証券会社にお預けの株式について

お預けの証券会社にお問い合わせください。

②証券会社にお預けでない株式について

三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

〈郵便物および電話でのお問い合わせ先〉

〒541-8502

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777

(通話料無料:オペレーターがお伺いいたします)

土日祝日を除く9:00～17:00

●お知らせ

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社の事務取扱場所は、平成21年10月13日をもって上記の場所に変更されました。

KOBELCO

インターネット ホームページ <http://www.kobelco.co.jp>



この「株主の皆様へ」は環境に配慮し、無塩素漂白による、古紙パルプ15%、植林木・間伐材パルプ85%と、大豆油インキを使用しています。